

シラバス参照

開講年度	2018
講義コード	031080JD
科目ナンバー	[APM]-[COM]-[200]
開講セメスター	夏セッション1
講義名・クラス名	特殊講義 (APM専門) JD
担当教員	陳 世宗
備考	注意: 夏セッション1は7月29日(日曜日)から8月2日(木曜日)に開講されます。 7月29日は日曜日ですが、授業は実施されますのでご注意ください。 Note: The period for Summer Session I this academic year is July 29 - August 2, Sunday - Thursday. Please note that lectures will be held on July 29, regardless of whether this day falls on a weekend. セッション期間の科目は、卒業予定日を含む最終セメスターでは履修できません。 No session courses may be registered during a student's semester of scheduled graduation. Students who have taken this Special Lecture with the same professor and the same content are prohibited to register for this course a second time. 同じ教員および同じ内容の特殊講義をすでに履修したことがある学生は、再度受講することができません。

講義分野	
履修の目安	1. この科目の開講言語は日本語がベースに据えているが、研究テーマの性格からすると、調査及び理解を深めるためには「中国語」および「英語」関係の資料・文献を扱う必要性が生じる。また、レクチャーを理解しやすくするため、「経済学」に関する基礎知識を必要とする。 2. また、経済過程は、経済の論理だけによって説明しつくされるものではない。政治や思想など、一切の社会現象が経済的な理由によって規定されると考える立場は、一面的と言わなくてはならない。経済がそれらを動かすことがあることは当然としても、逆に政治や思想や世論などが経済を動かし、現在の経済が、経済の論理から導き出されえない方向に突き進んでしまうことがあることを理解すべきであろう。だから、国際政治、台湾の国内政治及び社会情勢、また中国大陆との関係などについても、ある程度の理解と知識も必要だと思う。
授業概要	1. 第二次世界大戦後の台湾経済発展の歴史をよく知ること 2. さまざまな政治、社会及び経済問題に見舞われた台湾政府の経済政策の成功、失敗について検討すること 3. 現在台湾経済が抱える問題をマクロ的に捉えて、消費、民間投資、政府支出、輸出入などを分析した上で、経済理論に基づいた台湾経済の当面と将来、政府が採るべき適切な政策を探索すること 即ち、以上のことによって、学生に経済理論及び経済政策の実務性を理解させて、経済学をもっと勉強する興味を起こさせればよいと思う。
到達目標	「台湾経済論」の目標は、台湾経済の発展とその内包するメカニズムについて、基本的な知識を要約し、その基礎に立って、現在及び将来の台湾経済の諸問題について考察し、分析しうる条件を整えることにありとわたしは考えている。 したがってそれは歴史的な分析と現状分析の寄せ集めではなく、歴史的過程をふまえた現状の理解でなくてはならない。 「台湾経済論」は、戦後台湾経済の長期成長過程の要約と、歴史的分析和、現代の構造分析などから成るけれども、歴史の部分も独立した歴史叙述としてではなく、むしろ現状との関連で少なくとも1950年から現在の2010年代の諸問題との連繫を念頭において、構成したつもりである。叙述の密度が現状に近づくほど濃くなっているのはそのためである。
授業方法	1. 基本的にはレクチャーで進めていく。レクチャーはパワーポイントを使用する。 2. レクチャーの中で、ディスカッションを重視する。
毎回の授業の概要	1. 台湾紹介と前言 2. 戦後台湾経済発展の六大時期 3. 台湾「光復」初期の経済混乱期(1945-1949年) 4. 台湾経済回復期(1949-1952年) 5. 農業工業平衡発展期(農業で工業を育成し、工業を持って農業を発展させる時期)(1952-1960年) 6. 輸出指向主導経済発展期(1960-1986年) 7. 経済転換期(1986-2000年) 8. 2000年-迄今 9. 蔣経国総統、李登輝総統、陳水扁総統、馬英九総統及び蔡英文総統と台湾経済発展 10. 戦後台湾の経済発展モデル 11. 戦後から1980年代初期の急速な台湾経済発展の原因と1980年代中期以降の台湾の変転 12. 当面の台湾経済発展の主要課題 (1)生産要素から見た台湾経済と国際競争 (2)国民所得の方程式から見た台湾経済 13. 当面の台湾経済発展の対策と展望 (1)コストを下げる視点から台湾経済発展の課題を解決する対策 (2)産業競争力を高める視点から台湾経済発展の課題を解決する対策
予習・復習の内容と分量	1. マクロ経済学、特に経済成長、失業、及びインフレについての理解。 2. または国民所得方程式及び金融政策、財政政策、為替政策などについての概念。
成績評価方法	ディスカッション、問題提起及び中間報告 40% 出席点 20% 期末試験 40%

多文化協働学 修の実践方法	戦後の台湾経済以外、日本、韓国、中国またはアセアン諸国の経済発展及び基本的な問題などについては出来るだけ触れて、議論していきます。
学生への要望 事項	
テキスト備考	
テキスト（授業 を履修する上 で、購入が必 須となる書物）	
参考文献備考	
参考文献(図 書、視聴覚資 料)*ライブラ リーリザーブ コーナーに設 置	
参考文献(雑 誌、年鑑白書 等)	
備考	
担当教員研究 室電話番号	
担当教員 E-mailアドレス	zuchung2003@gmail.com
E-Book およ び 関連ページ	